

全体で A4 用紙 10 枚以内に納めてください。スペースは自由に動かして構いませんが、字数制限がある箇所は制限以内で記載してください。

チーム名・代表者氏名	たまなタートルズ ・ 尾池大祐
発表テーマ (50字以内)	もう、何もないとは言わせない！ 玉名の地域資源を繋いで多彩なプランを体験できる“大人の修学旅行都市”へ

玉名は縄文時代の遺跡や戦跡などの文化財が点在し、温泉、玉名ラーメンなどの食文化が発展してきた町である。また、九州新幹線の新玉名駅が設置され、今後の発展が期待される。そこには、高瀬地区や博物館、玉名温泉などの歴史や文化が深く楽しめる地域が多くある。市内にパンフレットや情報はあがるが、何がどこにあるのかわかりづらく、観光のシンボルがない為、玉名在住の住民が「玉名は何もない」という意識がある。

本提言では、点在した観光資源を結びつけ更なる魅力を創出するために、玉名観光協会を中心に大人の修学旅行を実施していく。具体的には、生涯学習や生きがい作りの自己投資が流行しているリタイア世代をターゲットの中心として、玉名の観光地を巡る体験型の旅行を実施することで、玉名の魅力を発掘し、シンボルを作ることで住民が何もないという意識を払拭、玉名を元気な地域にする。

提言の内容

熊本県は九州の中心に位置し、2011年3月の九州新幹線鹿児島ルートが全線開通し、熊本にも4つの新幹線駅（新玉名・熊本・新八代・新水俣）が新設された。このことによって、九州をはじめとする全国からアクセスが良くなり観光客数の増加が期待される。県の観光政策の動向として、平成27年度の目標として、延べ宿泊者数750万人、延べ外国人宿泊者数60万人、来訪者満足度80%以上の数値目標を掲げている。

熊本県の観光の現状を見ると、来訪意向として温泉、自然、グルメショッピングが上位に位置している（図1）。来訪の情報収集の手段としては口コミ・知人紹介・インターネットによるものが多い。また「以前訪問した自身の経験」と回答した者もあり、リピーターの人数も多いことが読み取れる（図2）。

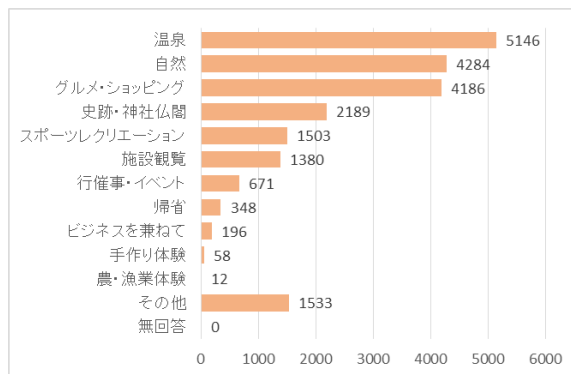


図1. 熊本県の来訪意向 ※平成22年熊本県観光パラメータ調査

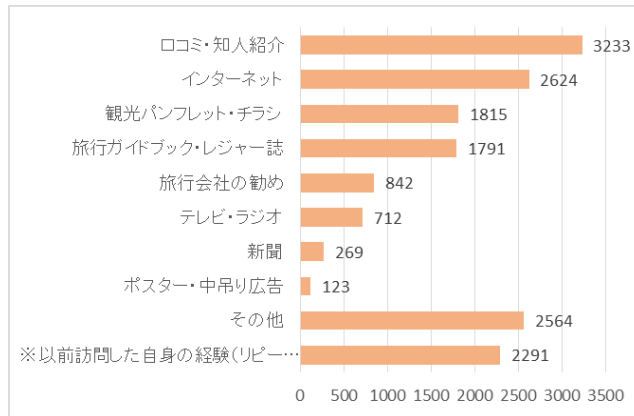


図 2. 熊本県を訪れる観光客の情報源 ※平成 22 年熊本県観光パラメータ調査

玉名市は、新幹線や高速道路をはじめとするアクセス環境に恵まれた地域であり、熊本県北の中心都市である。ここで、玉名の強みと弱みとして以下のことが挙げられた（表 1）。

表 1 玉名の現状（玉名の強みと弱み）

玉名の強み

人口が7万人ほどの都市である。
 ほどほどの町で田舎である。
 玉名ラーメンと温泉がある。
 歴史が沢山ある。
 豊かな自然がある。
 観光できる場所が各地に広がっている。
 車があると生活しやすい。
 福岡や熊本市からアクセスしやすい。

玉名の弱み

住民が玉名に何も無いと思っている。
 大きなシンボルが無いと思っている。
 いろいろなものがそこそこそろっているが協力ができていない。
 駅前が寂しい。
 バスが使いづらい。
 JRと新玉名駅が離れている。
 車がないと生活しづらい。

2. 玉名の観光

観光客が求める資源として、玉名温泉や玉名ラーメン、自然や歴史等があり、観光地として魅力溢れるものが多く存在している。玉名市の観光客数は、H18年から徐々に減少傾向にあり（図 3）、そのほとんどが日帰り観光客となっている。そして、日帰り観光客の内訳としては県内客が県外客の 2 倍を占めており、宿泊客の傾向は、県外客が県内客の 2 倍となっている。H23 年のデータによると、県外からの日帰り観光客数は約 56 万人であるが（図 4）、宿泊しているのは約 3 万人と約 5%にすぎない（図 5）。また、県内の日帰り観光客は県外の日帰り観光客の 2 倍になっている。玉名市は観光地としての認知度が高いが、宿泊客数が少ない現状がある。

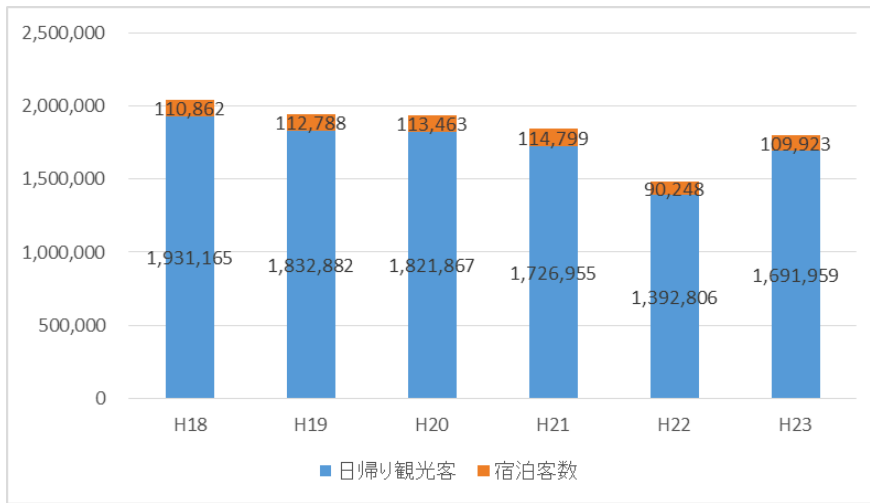


図 3. 観光客数の推移 ※玉名市商工観光課

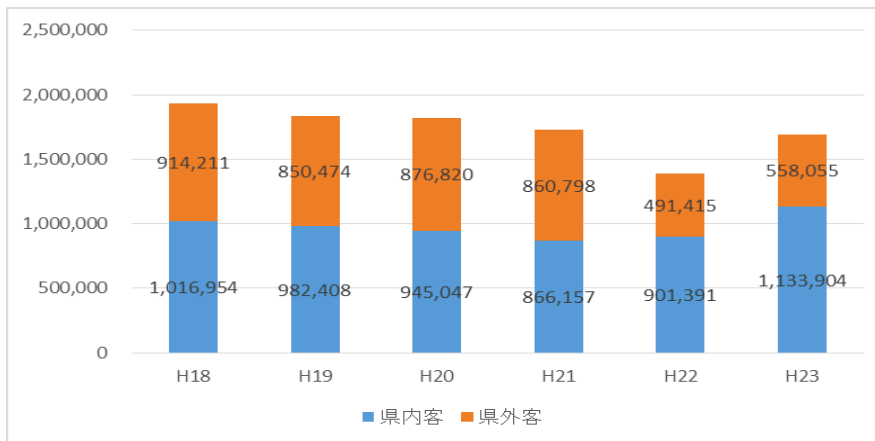


図 4. 日帰り観光客数の推移 ※玉名市商工観光課

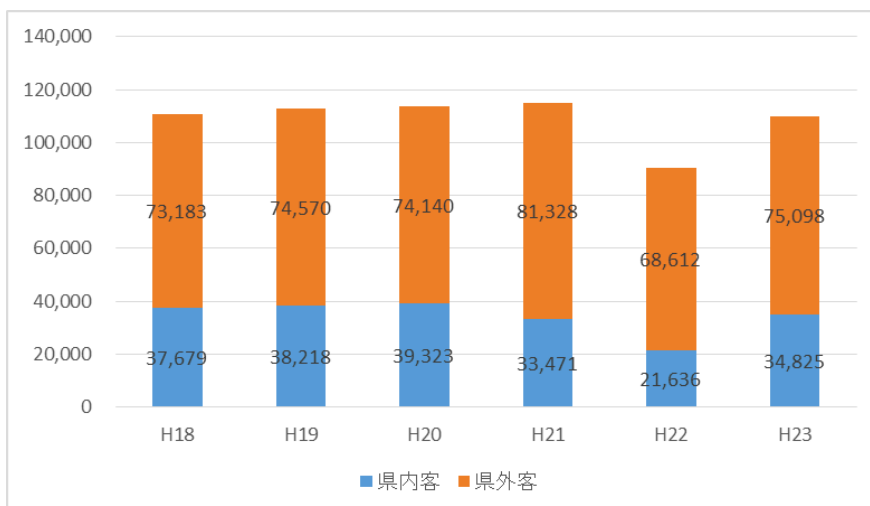


図 5. 宿泊客数の推移 ※玉名市商工観光課

以上のことより、福岡県や熊本市からのアクセスが良い玉名市を観光都市とするために、多くの観光資源が点在していて本来観光として魅力があることに市民に気付いてもらう必要がある。

本提言では、玉名温泉や玉名ラーメンなどの豊富な観光資源を結びつけ“宿泊して遊びに行きたい観光都市”を目指すため、大人の修学旅行を提案する。

提言の具体的な内容

【もう、何もないとは言わせない！

玉名の地域資源を繋いで多彩なプランを体験できる“大人の修学旅行都市”へ】

魅力ある地域の情報を集約して協力し合いことで、地域住民が玉名に誇りを持ち、観光客が玉名の生活文化体験などを通して学ぶ、地方中核都市の新しい着地型観光を目指す。地域資源や文化を繋ぎ、再構築することで玉名市の資源がまるごと観光のコースになっていく。

1. 大人の修学旅行

1-1 月別観光コースの作成

既存のパンフレットでは、花火大会やしょうぶ祭りなどの季節限定のものが多く、季節外れにくると期待外れの観光になってしまうことも多い。この状況を改善するために、月別の観光コースを設定する。月別に観光スポットを選定し、お勧めのコースとして作成する。季節の植物や食材が堪能でき、季節ならではの玉名全域でまとめることで玉名の一体感を創出する。

具体的なコース作成では、玉名の住民を中心として、「玉名の良いところ」「自慢できるところ」を挙げ、玉名市や観光協会などと意見交換を行い、それを集約して、観光の場所などを設定する。月1回程度のペースで住民参加のワークショップを行い、そこには地域で勢力的に活動している団体や関係機関に参加してもらう。

1-2 観光ケアプランナーの育成と配置

観光客に対して事前に観光コースを提案することができる人材を育成する。観光ケアプランナーは観光客のメールや電話に対応できるようにする。具体的には季節に合った観光コースの提案や、旅行者が求める旅行内容にあったガイドを紹介する。

1-3 学生の地域力向上

地域観光ガイドの立ち上げやついで別観光コースの作成時に高校生や大学生に参加してもらう。何もないと思っている若者に玉名の魅力を再発見してもらい、少しでも若者世代から意識改革を行っていく。そしてリターン者を増やし、地域力を向上させる。

1-4 玉名一丸となつての情報発信

玉名の観光エリアの情報を集約することで、観光客に観光のPRを行いやすくする。組織や企業の繋がりを深め独自の観光PRに期待する。

1-5 玉名ブランドの定着

玉名の食材を収穫し、試食できる観光コースを作成し、玉名の食材の魅力をPRする。薬草やハーブなどを使った料理体験などもできるうえ、地域ごとの特産品や農場などを紹介しやすくする。

《観光コースの例》

- ・ 温泉ざんまいコース

玉名温泉→天水温泉

- ・ 半日コース

映画看板→足湯→玉名温泉

- ・ 歩いて健康増進コース

JR 玉名駅→高瀬蔵→博物館→玉名温泉

- ・ 食とスイーツコース

玉名ラーメン→玉名牧場周辺→天水みかん・横島いちご

- ・ 歴史コース

博物館→寺→戦跡

《宿泊コース》

- ・ 温泉ざんまいコースをベースにして、半日コース、歩いて健康増進コース、食とスイーツコース、歴史コースの中から選択する。

2. 大人の修学旅行の基盤整備

2-1 パーク・アンド・ライド

日常的に自転車に乗る週間を促し、自転車に乗って運動不足を解消する。自動車で観光エリアの中心にアクセスし、そこから自転車に乗って観光エリアを散策できるようにする。サイクリングコースも提示する。

- ① 日常的に自転車を利用しやすくする為に、自転車専用道路等の走りやすい道の整備を行う。

② 観光エリアの中心部を決め、駐車場や施設の整備を行う。

③ レンタサイクルや駐輪場の整備を行う。

2-2 歩道の整備

歩いて買い物や食事ができるようにする。観光エリアの設定をして、その周辺を歩いて観光したくなるように歩道や街頭、緑地など整備する。適切な距離に休憩所やトイレの設備も必要になる。

2-3 観光案内の標識

現在の観光案内の標識が分かりづらいため、歩いたり自転車に乗ったりして行きたくなる標識を設置する。休憩所やトイレの標識も設置する。

提言を実装したときに、期待できる効果

① 玉名市民が玉名をもっと好きになる

玉名の地元の人が玉名の魅力を再発見でき、玉名をさらに好きになることで、玉名への愛着が湧く。

② 地域間交流

玉名の地元の人が玉名の魅力を再発見し、他の地区を知ることで、お互いの良さを分かち合うことで交流が深まる。

③ 健康増進

歩道や自転車専用道路などを整備することで、歩きやすく自転車に乗りやすい町となり、日頃から運動を心がけるようになる。

④ 口コミ広がる玉名の魅力

自分達の町をもっと宣伝して玉名に多くの観光客が訪れるようになる。修学旅行で訪れた人は、玉名の魅力が分かり、再度、玉名に来る「リピーター」が増える。修学旅行として訪れた地区だけではなく、その他の地区についても、訪れる可能性が広がる。